

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2017年度 助成者)

作成日 2017年 8月 22日

氏名 (フリガナ)	大谷 理了 (オオタニ トシノリ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2017年8月14日 (月) ~ 8月19日 (土)
大学名	群馬大学
学年	6年

5日間の濃密なプログラムのもと、非常に学ぶものが多かったと思います。

グローバル化が進む昨今、医師として生きて行く上でも英語でのコミュニケーション力が必須な時代がきつとやってくると思いい少しでもその能力を伸ばそうと今回参加させていただきました。

初日には小林先生からケースプレゼンテーションがいかに大事かを説明していただき、2日目からは早速自分で情報を集め実践することとなりました。

見落としを防ぐためありとあらゆる患者情報を網羅しようとする米国式の間診は自分がこれまでやってきた間診とは全く異なる次元のもので、中々完全に実践することができなかつたことが心残りです。ケースプレゼンテーションについては、初日は見るも無残なもので、周りと比べてあまりの出来の悪さに打ちひしがれました。幸い多くの方々からその都度アドバイスをいただくことができ、最終日には内容はともかく形だけはまずまず整えた発表が行えるようになりました。スタートの状態が状態なのであまり手放しに喜んではいけないのかもしれませんが、先生からはこの数日で随分成長したとお褒めの言葉をいただき大変嬉しかったです。

時には喋る内容が支離滅裂になり、時には何度も聞き返さないと理解すらできなかつた私の拙い英語力でも辛抱強く付き合ってくれた皆さんには頭が上がりません。今回を機に改めて根本的な英語力のなさが浮き彫りになりましたのでこれまで以上に英語そのものをしっかり勉強していきたいと思います。

そしてハワイ大学の学生の皆さんの優秀さを間近で見ることができたこともこのワークショップで得たものの一つです。病歴を聞いてから瞬時に鑑別を考えると驚きましたが、その鑑別の数も桁違いでした。また、病気に対する知識も深く、典型的な症状や治療法のみならず疫学にも精通しており圧倒的な知識量を持っていました。教育の差はあれども同じ医学生でここまでの差があるとは思いませんでした。この悔しさを忘れず、本業にもより邁進していきたいと思います。

5日間のプログラムは主にヒストリーテイキング、ケースプレゼンテーションに趣向を当てていましたが、それ以外の時間ではハワイの病院見学、豪華な講師陣からのレクチャーなどもありました。

ハワイの病院見学では何か所かの病院を見学させていただき、スタッフの皆さんのご協力のもと米国の医療の一端を見ることが出来ました。

スペシャルレクチャーでは実際のケースを討論形式で進めていき臨床推論の難しさを肌と感じました。講師の先生の解説を聞くことで現場の先生の考え方を知ることができ、またいくつもの鑑別を考えて診断を進める臨床推論のおもしろさを感じました。

このワークショップで学べたことは、日本にいたただけでは到底得ることができないものであり、本当に言ってよかったと思います。5日間だけでもケースプレゼンや臨床推論、英語力の向上を感じています。

Dr.Little を初めとする先生方、スタッフの方々、また助成して下さった公益財団法人日米医学医療交流財団の皆様のご厚意のもとこのような素晴らしい体験をすることができました。深く感謝申し上げます。ありがとうございました。